

公式通知 No.2

ライダーズブリーフィング資料

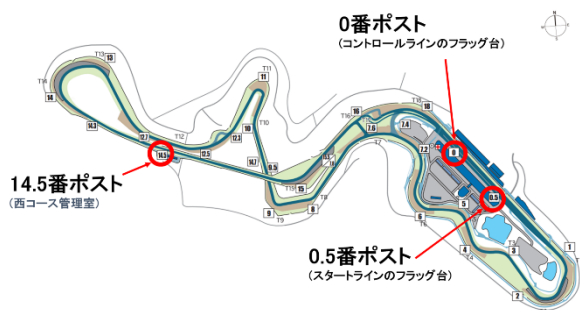
1. 注意事項

- ヘルメットやリムバーのあご紐、レーシングスーツ、ブーツのファスナー等は完全に閉めること。
- エアバッグ装着義務者は転倒等でエアバッグが展開した場合、MFJ 国内競技規則付則 4 10-2-1-7 2) に基づいた運用とする。
- ライダーは、**必ず右上腕部に腕章を着用すること。**（第 1 ライダー：青色 第 2 ライダー：黄色）

2. ポスト配置、コースイン・ピットイン時の注意

1)

ポスト配置について



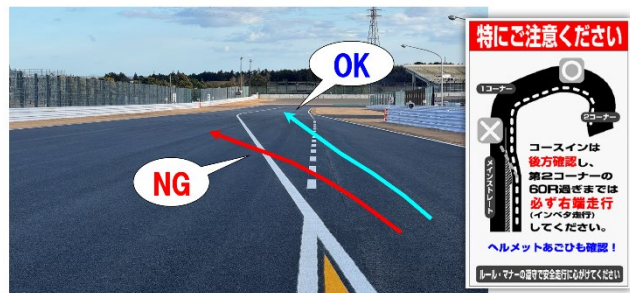
2)

ピット出口のシグナル表示



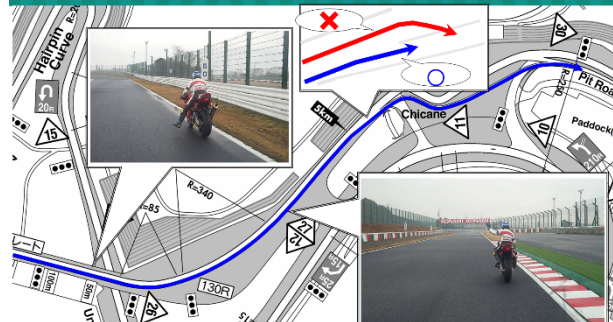
3)

コースイン方法について



4)

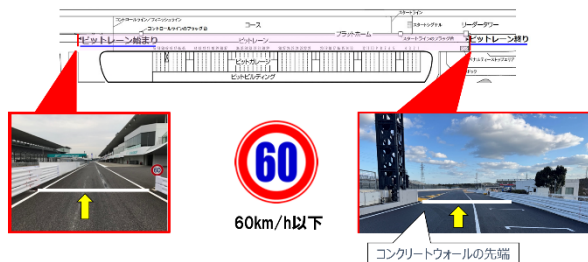
ピットイン時の注意



5)

ピットレーン制限速度について

・ピットレーン



特にピットレーン中間・出口でのスピード超過に注意

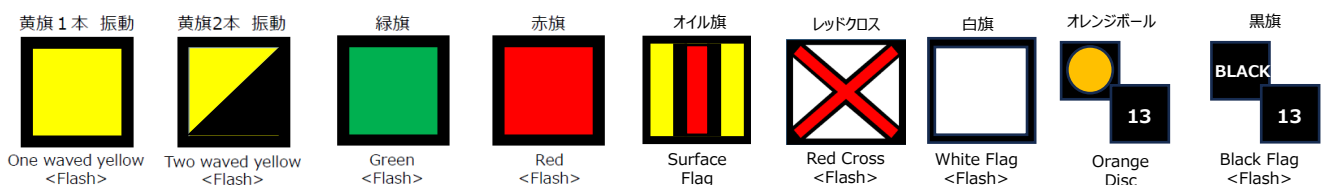
3. フラッグ等について

ライダーは、掲示されるフラッグ・ライトパネルを確認する義務がある。※違反した場合は罰則を科す。

ストレート上でもフラッグやボードの見落としがないように注意すること。

	【黄旗 1 本】 振動表示 表示ポスト前方でトラブルが発生。 減速し、緑旗提示ポストまで追い越し禁止。		【黄旗 2 本】 振動表示 表示ポスト前方コース上にトラブルが発生。減速し、緑旗提示ポストまで追い越し禁止。
■黄旗の基本的な出され方 コースの前方に転倒などの危険な状況が起きていることを知らせています。ポストでは黄旗を振動させて知らせますので、そのポストから追い越し禁止となります。最大限の注意を払いながら危険な状況が起きている地点を通過します。さらに、追い越し禁止は続き、緑旗が提示されるポストを過ぎたら追い越し禁止が解除されます。黄旗の振動に代わりに、イエローライトの点滅によって危険を知らせる場合もあります。			
	【赤旗】 走行中断。減速し、ピットに戻らなければならない。		【オイル旗】 雨以外の理由でコース上が滑りやすい状態の時、提示される。(オイル漏れ、落下物なども含む。)
	【チェッカー】 走行終了。速度を落とし、その周でピットインをすること。先頭でチェッカーを受けた車両が通過するタイミングでコントロールラインのフラッグ台(0番P)及びインフォメーションパネル(スタートライン上)の計2箇所までチェッカーを提示される。ダブルチェッカー防止のため、ストレート走行中でも必ずフラッグ台を確認し、見落としさないこと。※チェッカーフラッグ提示後、各ポストで黄旗が静止表示される。但し、トップライダー直前に未チェッカー車両が走行している場合は、提示を遅らす場合がある。		【オレンジボール+ゼッケンボード】 ピットまで戻らず速やかにコースアウトし、最寄りの安全な場所に車両を止めること。 ※大量のオイル漏れ等、危険を及ぼす恐れのある競技車両が発見された場合、即当該ライダーに警告するため、旗のみ表示を行う場合がある。
	【白旗】 救急車等の介入車両があり、この介入車両を追い越すまで他のライダーを追い越す事は禁止される。		【黒旗+ゼッケンボード】 当該車両は直ちにピットに戻り、オフィシャルの指示を受けること。
	【青旗】 後方よりベースの速い車両が接近し、追い越される場合に振動表示にて提示される。		【チェッカー+青旗】 ファイナルラップにフィニッシュラインの手前でトップライダーの直前に他のライダーが走行している場合、トップのライダーはチェッカーを意味するが、直前を走るライダーにはもう1周することを示す。
	【緑旗】 コース規制の解除ならびに、提示ポストから黄旗の解除を示す。 レース以外の走行の1周目に各ポストで表示される。		【レッドクロス】 コース上のこの付近において、雨が降り始めたことを示す。 この雨が路面状況に影響を及ぼしている可能性もある。

・ライトパネルの表示例



4. 公式予選について

予選方式は計時予選とし、走行時間 20 分間とする。出走ライダーは自由とし、ライダー交代は可とする。

5. 決勝レースについて

- 1) 決勝レースの周回数は 1 2 周とする。ただし、WET 宣言が出された場合、決勝レースは 2 周減算される。
- 2) **スタート前チェックはピットロード側車検場前**にて行う。競技車両の持ち込みは必ずしもライダーである必要はない。時間を厳守し、必ずチェックを受けること。時間内に完了していない場合、決勝レースへの参加は認められない。
- 3) **ライダーの出走順は問わない。**
スタートライダーの申請は不要とする。
ただし、**腕章の色は公式予選時から変更しないこと。**
- 4) **サイティングラップからグリッド到着時について**
サイティングラップ終了後にグリッドに戻ったライダーは、オフィシャルが赤旗 2 本を静止提示している場所で一旦停止し、ライダーは、エンジンを切らなければならない。
その後ライダーまたはチーム員が押し歩くような速さで所定のグリッド位置につく。その際にライダーは降車しても乗車したまま移動しても良い。

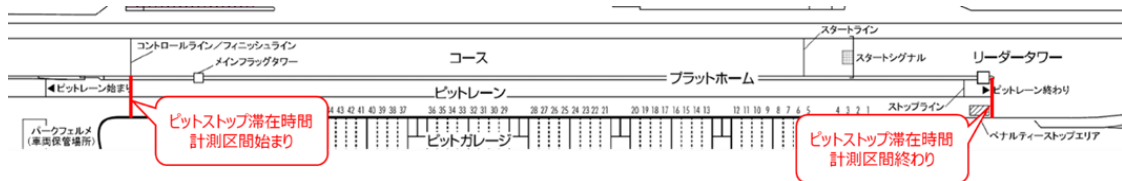


- 5) スタート時に競技車両を支える者は、**スタートライダーを除く正ライダー**とし、レーシングスーツ・ライディングブーツおよび 2 輪用ヘルメットを着用すること。グローブの装着は推奨される。
- 6) スタート時の**エアバッグ装着補助要員申請の期限は予選終了後 30 分以内**とする。申請方法や詳細は「INFORMATION No.4」を確認すること。申請がない場合、エアバッグ装着補助要員の待機は認められない。
エアバッグ装着補助要員は必ず長袖・長ズボン・シューズ（肌が全て隠れる物）および 2 輪用ヘルメットを着用し、選手受付時配布のエアバッグ装着補助要員用腕章（白色）を必ず装着すること。
- 7) **グリッドにおけるタイヤウォーマーの使用は余熱も含めて不可とする。**
- 8) エアバッグは正常に作動するよう確実に装着すること。
- 9) スタート前のエンジン始動は、**競技車両を支えるスタート補助要員が始動装置（セル・スターター）を使用して、スタート 3 分前から 1 分前までに始動すること。**エンジン始動後は、競技車両後部を保持するのみとする。
スタート時に押しがけ、あるいは他人の協力を得て始動させることは合図があるまで禁止とする。
- 10) スタート合図は日章旗を使用する。日章旗は決勝グリッドの中間地点で振り上げられる。（24 番グリッド付近）
日章旗が振り上げられたらスタートライダーはコースを横断し、競技車両に駆け寄りスタートすること。
スタート時、日章旗が振り上げられる前に白線から足が離れたチームは罰則を科す。
- 11) 決勝スタート後、コンクリートウォールを越えられないベアライダーやエアバッグ装着補助要員は、ホームストレートからの退出用ゲートへ速やかに向かうこと。
- 12) ル・マン式スタートでは、特に上位グリッドのライダーは後方からの競技車両との衝突を避けるため、スタート直後は極力コースの右側を走行すること。（スタート直後は周囲の状況をよく確認し、接触等がないように気をつけること。）
- 13) 全車スタート後、**PUSH**ボードを提示した後、アシスタントによる押しがけスタートが許される。
但し、オフィシャルが指示する時間内にエンジンが始動しなかった場合、コース外へ移動が命じられる。
PUSHボードはコントロールラインのフラッグ台(0P)とスタートラインのフラッグ台(0.5P)で掲示される。
- 14) スタート違反と判断された場合、タイム加算ペナルティが科される。
ペナルティボードはコントロールラインのフラッグ台（0P）および西コース管理室（14.5P）にて提示される。



6. ピットストップについて

- 1) 決勝において 1 人のライダーが **9 周以上走行してはならない**。必ずライダー交代すること。
- 2) **ピットストップ中は必ずエンジンを停止させること**。
- 3) ピットストップ滞在時間は、必ず下図区間で **最低 60 秒** 滞在すること。また、滞在時間管理は各自で行うこと。



- 4) 修理等の作業人員はその競技車両に登録されたピットクルーおよびライダーが行なうこと。
- 5) ドライタイヤは、予選・決勝を通じてマーキングが施された 1 セット（フロント 1 本リヤ 1 本）のみ使用可能。

7. 赤旗時の対応について

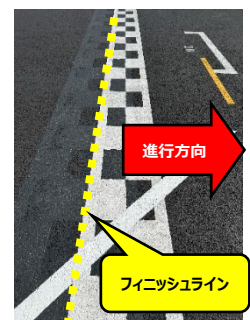
- 1) 決勝時に赤旗を提示する場合、MFJ 国内競技規則 付則 4-24-1 に準ずる。
24-1-2 をケース A、24-1-3 をケース B、24-1-4 をケース C として運用する。
- 2) 再開後のレース周回数はピットモニター、放送等で発表される。
- 3) 再開されたレースが再び赤旗になった場合、そのスケジュールを変更する場合がある。
- 4) 赤旗提示後 5 分以内にマシンに乗って、またはマシンを押してピットレーンに戻ってこれないライダーは再スタートできない。ただし、競技結果が 2 周以下の再スタートでは全ライダーが再スタートできる。
また、東ショートカットを使用してピットへ戻ることは認められない。

8. レース再開手順について

- 1) **再レースのスタートもル・マン式で行う。**
- 2) 再スタート手順については MFJ 国内競技規則 付則 4-25-1-8 クイックリスタートが適用される。
ケース B の場合、再スタート時のスタートライダーは自由とする。
- 3) サイティングラップからスタート手順が再開され、ピット出口は約 30 秒開放される。
- 4) スタートライダー以外の正ライダーおよびエアバッグ装着補助要員は規定の服装を着用し、グリッドで待機すること。
ライダーは、グリッドに到着したらエンジンを停止しないこと。
- 5) 車両を押してグリッドに移動することは認められず、サイティングラップに参加できないライダーはピットレーンスタートとなる。
- 6) スターティンググリッドについたことが確認された段階で「**スタート 1 分前ボード**」が提示される。
- 7) 以降、通常のスタート手順。

9. 決勝レース終了について

- 1) 鈴鹿サーキットレーシングコースにおけるコントロールライン/フィニッシュラインは右図に示す基準線とする。
- 2) チェッカーを受けコースを 1 周後、**ピットインせずホームストレートでオフィシャルの誘導に従い、ピットレーンを逆走して車両保管場所へ移動すること**。
その際、ハイタッチ等の行為は禁止する。
- 3) チェッカーの周にピットインした場合、順位はチェッカーを受けた競技車両の後ろになる。
誤ってピットインした場合でも、チェッカー後の再コースインはできない。



10. 決勝レース後について

- 1) 上位ライダーは車両保管を行う。車両保管場所の車検場までオフィシャルが誘導する。
- 2) レース終了後の再車両検査において分解検査を行なう場合がある。
- 3) 表彰式は全レース終了後、ポディウムにて行う。

11. 走行にあたっての注意事項

- 1) スロー走行を余儀なくされた場合、レコードラインを避け、後方に注意し、極力右側を走行すること。
- 2) 重大なマシントラブル発生時、速やかにコース外グリーン奥の安全な場所へマシンを止めること。
- 3) 転倒したらすぐに安全な場所へ退避すること。負傷で退避が困難な場合、大きくアピールすること。
- 4) 可能な限り、オフィシャルの車両撤去に協力すること。
- 5) 転倒、オーバーラン後のコース復帰時は、必ず後方確認を行うこと。
- 6) エンジントラブルや転倒車が出したオイルにより、後続車を巻き込んだ重大事故が発生しているため、オイル旗提示時は路面状況を確認すること。
- 7) 他の車両を追い越す際は、接触のないようにすること。

基本的にレコードラインを走行する者に優先権があり、抜く側は追い越しのリスクを認識しておくこと。

① 追い越した後、レコードラインに戻る際は、抜いた車両のスペースを意識しておくこと。

② 走行ラインを譲る際は、追突事故の原因となる為、急なライン変更や急減速をしないこと。

12. 使用燃料について

- 1) 使用燃料は、鈴鹿サーキット内で販売されるものを使用すること。各銘柄が混ざらないように十分注意すること。
- 2) 公式予選、決勝を問わず、また順位の如何を問わず燃料検査を実施する場合がある。

13. その他

- 1) 天候の急変等で、走行スケジュールを変更する場合があります、場内放送等に気をつけること。
また予備のガソリンや工具等は、予めピット前に準備しておくこと。
- 2) 走行時には、必ず車検に合格・登録したヘルメットを使用すること。※複数個登録することもできる。
- 3) 車両整備は、オイル漏れやカウルの脱落など車両トラブルがないように徹底して行うこと。
※オイルをコース上に撒いた当該ライダーおよびエントラントに対しては罰則を科す。

以上